

2012年8月30日

## 金口木舌

「もう一つの甲子園」といえば全国高校軟式野球選手権が知られているが、さらに別の「甲子園」をご存じだろうか▼離島の中学生児が集う「離島甲子園」(全国離島交流中学生野球大会)。第5回大会が東京都の八丈島で開催中だ。沖縄からは久米島イーグルスと南大東中が出場し、久米島が見事決勝に進んだ。きょう優勝を懸けた大一番に挑む▼「八重山で優勝する。本島で優勝する。全国大会に行く。だんだん旅費が高くなる。単純に喜べない状況がある」。離島活性化のコンサルタント会社を経営する比嘉梨香さん(前県教育委員長)は3月に国会でこう訴えていた▼与那国で調査したら、3小学校と2中学校の文化・スポーツ活動に年間800万円の派遣費が掛かっていた。うち半分は親の負担。いずれ高校に通うため島を出ていくと、負担は部活費ごろの話ではない▼「歯の検査や眼鏡を作るのも那覇などに行かないとできない」。島嶼島の沖繩は本土に比べ電気・ガスなどの水光熱費や食品などが割高だが、離島ではさらに重い負担が掛かっていることには本島の人たちも案外鈍感だ▼離島甲子園を提唱したプロ野球元ロツテの村田兆治さんは「交流を通して子供たちが夢と希望と勇気を持つてほしい」と言う。島の未来を担う子供たちの晴れ舞台に喝采を送りつつ、その支援の在り方をもう一度考えてみたい。